

ふれあい

2016年 冬季号 vol.61

2016年(平成28年)2月1日発行



日本医療機能評価機構認定病院
医療法人社団 浅ノ川 金沢脳神経外科病院 広報誌
TEL : 076-246-5600 FAX : 076-246-3914
石川県野々市市郷町262-2
http://www.nouge.net

病院
理念

脳神経外科専門病院として私達は患者の皆様により高度の医療技術を提供し、公平で平等な患者中心の医療を行います。



脳卒中は大変です



副院長 兼
リハビリテーション部
センター長
宗本 滋

「ふれあい」を手にとられた方はどのような方でしょうか。ここでは脳卒中のお話をしようと思います。脳卒中という言葉は身近に日常的によく見かける言葉ですが、直接、間接にかかわりがあるのでしょうか。脳卒中はとも大変な病気です。元氣な方が突然、動けなくなったり、喋れなくなったりします。さらにひどい時には意識がなくなってしまう。その症状のために生活が変えてしまいます。その古来、脳卒中は「中風」といわれ、とても恐れられていました。今でもやはり怖い病気です。脳卒中への入り口は高血圧症や糖尿病など、昔なら成人病と言われたもの、いまなら生活習慣病として取り上げられている病気です。病氣の原因は大昔から変わらず、多くの人が指摘してきました。暴飲暴食、不摂生、不養生です。でも、本人の責任だけではありません。生来の素因、年とともに進む血管の動脈硬化、心臓の病氣などが大きく関係します。

現在是不摂生の程度が数字で表せるようになり、細かい基準で個人を評価し、適切な数字になるように指導、治療しています。血圧、血糖、体重ほか細かい数字が医師の前では問題にされず。でもなかなかこれが難しいのが実情です。この数字に体を合わせることが大変です。簡単ではありません。それが嫌で医院、病院に行かないという方もおられます。これらの数字が完璧に良くなつたとしても、体から脳卒中を完全に予防できないことも事実です。

計画通りに治療効果が表れない、あるいは治療効果が表れていても完全には防ぐことができない、それが今でも脳卒中が死因の4番目に上がっている理由の一つでしょう。良い治療、良い予防が強く望まれます。成人になれば誰でも皆、成人病になるわけではなく、生活習慣が病気になるのですよというのを意識してもらったために、このような生活習慣病という名前が付けられました。

脳卒中も治療で完全に元通りになれるのが一番です。医学では良い治療を常に目指してはいますが、現状は必ずしも満足できる状態ではありません。治療が進歩はしていますが、結果は不十分です。では脳卒中にかかった後はどうなるのでしょうか。再発予防が大切です。それとともに、脳卒中で壊れた生活を修復回復することが重要になってきます。医学では生活までのお世話はしてくれませんが、障害を抱えた人の障害に対してはいろいろな配慮がされてきています。でも、家族の生活を支援する仕組みは必ずしも十分ではありません。むしろ、困ることのほうが多くなるでしょう。いわゆる大黒柱の方が倒れた場合には大変なことになります。家族を大震災が襲ったのと同様な状況になることも起こります。

宗本副院長は労災保険診療費指導員として長年にわたり労働基準行政の推進に協力されました。この度その業績を称え厚労省石川労働局労災補償課長より12月2日に感謝状が手渡されました。

までご連絡ください。

現在、この活動団体は「加賀脳卒中地域連携協議会」と称し、参加している施設は平成27年12月現在で495施設となってきました。ホームページは<http://www.kagastroke.com>を立ち上げ、活動報告年報も発行しています。

この活動を多くの方々に理解していただき、さらに内容を充実してゆきたいと思っております。

今後とも、多くの方々のご協力、ご支援をいただき、脳卒中の方々のお役に立てばと思っております。

なお、年報ご希望の方は加賀脳卒中地域連携協議会事務局
(076・246・7109)

